

Title	在外正貨ノ處分ニ就イテ
Author(s)	神戸, 正雄
Citation	經濟論叢 (1916), 2(6): 1081-1085
Issue Date	1916-06
URL	<a href="http://dx.doi.org/10.14989/127030">http://dx.doi.org/10.14989/127030</a>
Right	
Type	Departmental Bulletin Paper
Textversion	publisher

學大科法學大國帝都京

# 叢論濟經

號 六 第

卷 二 第

## 論 說

●戰後ノ關稅團體ノ計畫

●生死減少逆行ノ法則

## 研 究

●植民政策上ノ根本問題

●本多利明ノ經濟說(三完)

## 雜 錄

●不換紙幣流通ノ根據ニ就テ

●在外正貨ノ處分ニ就テ

●數トリ切手貼用法

●全米貨幣統一案

●獨逸<sup>ニ於</sup>工場衛生問題ノ研究

●經濟雜誌(三)

●再ビ本多利明ノ著書ニ就テ

●歐洲戰爭ノ經濟的說明

●戰時戰後ノ佛國物價

●香港政廳卜對獨貿易

法學博士 戸田 海市

講 師 高田 保馬

法學博士 神戶 正雄

講 師 本庄榮治郎

法學博士 戸田 海市

法學博士 神戶 正雄

教 授 財部 靜治

助教授 河田 嗣郎

助教授 山本美越乃

法學博士 田島 錦治

講 師 本庄榮治郎

法學博士 河上 肇

法學博士 小川郷太郎

法學博士 佐藤丑次郎

## 在外正貨ノ處分ニ就イテ

法學博士 神 戸 正 雄

一 予ガ『新日本』三月號ニ在外正貨ノ處分ニ關スル卑見ヲ開陳シタルニ對シテ、學友河津博士ハ國家學會雜誌四月號ニ於テ之ガ反對論ヲ發表セラレタ。之ニ對シテハ予ハ五月號ノ雜誌ニテ答辨スルノ學責アルヲ信ジタガ、五月號ノ本誌ガまるさす記念號トナツタノト、恰カモ予自身臺灣巡遊ニ出掛ケタ爲メトデ、之ヲ果サナカッタノハ甚ダ遺憾トスル所デアル。茲ニ本誌ノ餘

白ヲ借りテ簡單ニ博士ニ答辨スル。

二 予ノ本問題ニ關スル所見ハ評シクハ前記『新日本』ニ譲リ、茲ニ之ヲ繰返サナイガ、要點ハ在外正貨トシテハ我外債ノ元利拂資金ト爲替資金トニ限ルコトトシ、其餘ハ凡ヘテ處分スルコトトシ、其ニハ

(一) 一定額ハ内地ニ取寄セテ兌換券ニ對スル正貨準備ニ充ツルコトトシ、更ニ其餘ハ

(二) 我對外債務ノ減少ニ充ツルコト詳シクイヘ

(a) 我公私外債償還(及買入)ニ充ツルコト

(b) 有利ナル外國證券及事業ニ放下スルコト

(三) 生産的ニ利用スルコト、詳シクイヘバ

(a) 内國事業ヲ起シ、擴張シ及運轉スルニ用

ユルコト

(b) 外國特ニ支那南洋等ノ事業ニ投ズルコト

ノ孰レモヲ各適當ニ實行シ其何レカ一ニ偏スルノハ不可デアリ又實行不能デモアルガ出來ルダケ(三)ノ生産の利用ノ多カウソコトヲ獎ムルニア

ル。此點ガ河津博士ト意見ノ異ナル所デ博士ハ

(二) (a) 一天張ヲ主張セラルルニ對シ、予ハ(一)(二)ノ孰レモヲ行ヒ、(二)ヨリハ(三)ノ方が重要ナルコトヲ説クノデアル。

尤モ右(二)(b)ト(三)(b)トハ關聯シテ居ル。(三)(b)ハ(二)(b)ノ一部トイフベキデアル。(二)(b)ノ放資先ガ公債ニ非ルダケデハ、(三)(b)ニ外ナラス。

三 河津博士ハ予ノ説ニ反對デハアルガ、全然反對サルルノデハナイ。理論トシテハムシロ予ニ賛成シ、實行上困ルカラ予ノ説ヲ探ラヌトイハルルノデアル。博士ハ曰ク

理論上ヨリイヘバ外債ヲ償還スルヨリモ、其資金ヲ以テ我國ノ幼稚ナル事業ヲ興シ、之ニヨリテ少シニテモ我國民經濟ノ基礎ヲ鞏固ニシテ、戰後ノ經濟戰爭ニ當ルヲ以テ優レリトス。此點ニツキ神戸博士ノ所論ニ賛成スル所ナレトモ、事實問題トシテハ注意セサルヘカラサルモノニアリ。

ト、又曰ク

生産利用説ハ理論上適當ナリト雖モ、事實問題トシテ其範圍明確ナラズ、其範圍ハ明確ナリトスルモ、此ニ利用スルノ困難ナルヘキカ故ニ、消極的ナル外債償還論ニ左袒セサルヲ待サルナリ。

ト。斯ク博士ガ予ノ説ヲ理論上適當トシテ承認シテ下サルナラバ、予ハ予ノ學究的立場トシテ

ハ其デ大満足デ、其以上實行ノ能否トカ實行ノ方法問題ノ如キハムシロ實際家ニ御譲リシタイ

四 河津博士ハ予ノ説ガ理論上良シ然シ實行上困難也トイフテ非難セラルガ、然ラバ博士ノ外債償還一天張りノ説自身モ實行上困難ナシトイヘルデアラウカ。増加スル在外正貨ヲスベテ外債償還ニ充ツルコトガ容易ノコトデアラウカ。特ニ予ノ如ク生産利用一天張りデナク、各種ノ方法併用ヲ主張スル説ヨリモ、博士ノ外債償還一天張りノ方ガ一層實行容易也トハ斷シテイフコトヲ得ナイ。試ミニ外債償還一天張りノ困難ヲ説カウ。日本ノ私外債ハ額モ少イシ、段々戦争トナツテカラ償還サレタカラ、暫ラク措キ、外國債ノミニツイテ見ルナラバ、今年二月末日ノ我外國債現在高ノ中\*

(a) 據置期間中ニ屬シ又ハ定期拂ニテ今日償還シ能ハサルモノ  
八四一、二二二、七三五、〇四〇

(b) 既ニ據置期間ヲ經過シテ今日償還シ得ルモノ  
六一九、九二〇、〇三九、四四〇

デアツテ、現ニ今償還シ能ハザルモノノ方ガ多い。之ニ地方債ノ分ヲ合算スルト\*\*

雜錄

(a) ニ屬スルモノ  
九〇五、七五八、七三五

(b) ニ屬スルモノ  
七三二、八二三、二八六

デ、矢張り今償還シ能ハザルモノガ多い。此方ノ外債ヲ政府デ減ラサウト思ヘバ、市場カラ買入ルルノ外ハナイ。然ルニ之ヲ盛ニ買入ルトイフト、其市價が大ニ上ボツテ、政府トシテ不利デアアルノミナラズ、今ヤ歐洲戦争デ歐諸國ノ有價證券特ニ國債ガ大下落ヲ生シテ居ルガ、戦後ノ財政困難及其經濟上ノ影響ナド考フルト、歐洲ノ人々ガ自國ノ證券ヨリモ日本等ノヲ持ツコトヲ選ムモノノ多クナル傾モアツテ、仲々賣物ガ見附カラヌカモ知レナイ。勿論他部ノ外債ハ今モ直チニ償還シ得ルニハ相違ナイガ、其ハ四分又ハ四分半利付トイフ低利デ、(地方債ノハ五分又ハ六分) 現在(四月下旬)ノ市價カライフト\*\*\*

第一回四分利 六九、四分  
第二回四分半利 九〇、八分  
第三回四分半利 九〇、八分

デアル。之ヲ額面ニテ償還スルコトハ國庫ノ利益上躊躇シナケレバナラヌ。市場カラ買入レル

\* 銀行通信錄今年四月號ニヨル

\*\* 地方債ニツキテハ内務省地方局大正三年度地方債統計ニヨル

\*\*\* 東洋經濟新報今年五月五日號

コトモ勿論出來ルガ、政府ガドシ／＼買ヒニ掛レバ、其市價ガ上ツテ、額面ニ近クコトモナル。其ニテモ買ヘレバ良イガ、賣物ガナクテ買ヘナイコトニモナリ得ル。ズアルカラ河津博士ノ如キ外債償還一天張り説ガ容易ニ實行シ得ルモノトハイヘナイ。加之他方、此外債償還ノ事ハ政府トシテハ豫算ノ制限ヲ受クル。在外正貨ガ増シタカラトテ、直チニ其ヲ償還ニ向ケルコトハ出來ナイ。此ハ豫算デ定メタラ良イトイフガ、豫算デ定メタトテ、豫算デ定メタ所ト在外正貨ノ増加シタ額トガ一致スルコトハ困難デア。假令之ガ一致シテモ、結局其ヲ行フノニハ多クハ内債ヲ起シテ其丈ケ外債ヲ償還スルコトトナルデアラウガ、其内債ヲドシ／＼起スコトガ又容易デアラウカ。多少ハ起セルニシテモ、河津博士ノ考ヘラルル如ク在外正貨ノ處分ヲ一ニ外債償還ニヨラシムル程度ニテ、此内債ノ募集カ容易ニ行ハルルデアラウカ、大ニ疑ナキヲ得ナイ。

五 予ハ初メヨリ生産利用ノ實行困難ヲ認メナ

イモノデハナイ。恰モ然ルカ故ニ、予ハ之ノミヲ在外正貨處分方法トハシナカツタノデア。予ハ諸多ノ方法ヲ適宜ニ併用セヨトイフモノデ、生産利用ノ困難ナルダケデハ、他ノ外債減少等ノ容易ナルモノヲ探ルコトニ反對スルノデモナケレバ、外債償還ノ困難ナルニ於テハ、生産利用ノ中ニ又ハ其他ノ放資ニ處分方法ヲ求ムルモノデア。唯ダ理論上トイフガ又ハムシロ政策上生産利用ノ方ガ外債減少ヨリモ重要デ、出來ルダケ此ニ力ヲ用キヨトイフノミデア。此故ニ此生産利用ガ實行困難又ハ不能トナツテモ、予ノ説ハ生産利用以外ノ方法ニ於テ行ハルルコトトナル。

六 河津博士ハ具體的ニ生産利用ノ方法ヲ示セト注文サルガ、此ハ予ノ如キ京都ノ山奥ニ隠レテ居ル者ニ對シテハ隨分殘酷ナ注文デア。机ノ上デ考ヘラルルダケノ方法ハ既ニ『新日本』ニテモ説明シテ置イタ。其以上ノコトハ學究タル予ニハ出來ナイ。其ハ實際家ノ工夫スヘキコトデア。又其後新聞ヲ見テ居ルト、實際家モ

予ノ説ノ方ニ向ツテ來テ居ル。嘗テハ在外正貨處分トイフト、外債償還ニ限ルガ、ク唱ヘラレタモノガ、近頃ハ之ガ資金化ナドイフコトモ屢々説カルルコトニナリ、日本銀行ノ最近ノ金利引下ノトキニモ此ガ一理由トセラルルマデニ變テ來タ。嘗ニ加之事實段々内國ニテモ正貨ヲ利用シテ事業ヲ新設シ擴張シヤウトイフ計畫ガアリ、更ニ海外特ニ支那南洋及ビ露國米國ノ如キニマデモ行ツテ鐵山、鐵道、綿花、紡績、護漢事業等ヲ起スノ計畫ガ我富豪事業家ノ間ニハ着々進行シテ居ルトイフ。\*\*\*此等ガ即チ予ノ説ヲ實行シツツアルモノデアル。成程此等ノ事業ヲ内外ニ起スニツイテハ歐米ヨリ諸材料機械等ヲ買取ラナケレハナラス。其ガ彼地ニ於ケル今日ノ生産ノ事情ノ下ニ容易ニ出來ナイトカ、交通ノ困難トイフコトガアルトカ、價カ高イトイフコトガアルトカ、色々ノ困難ハ勿論アラウガ、然リトテ之ヲ買取ルコトヲ躊躇スルニ及バヌ。高イモノデモ戰時中ハ其ヲ使ツテ相當ノ利益モ得ラルル。戰後トナラバ困ルトイフガ、計畫宜

シキヲ得、準備宜シキヲ得レバ必スシモ然リトモイヘナイ。特ニ夫ノ外國ノ事業ニ放資スルガ如キハ、今日ノ事情ノ下ニハ可ナリ安ク其證券ヲ買取ルコトニヨツテ行フコトガ出來ル。孰レニシテモ在外正貨ヲ以テ我が内外ニ於ケル生産ヲ進ムルコトトナルノデアル。